



第15期 2025年度
報告書

(2025年4月1日～2026年3月31日)



Providing trusted technology with sincere commitment

株主の皆様には、日頃よりサノヤスグループの事業活動にご理解、ご支援を賜り、心より御礼申しあげます。

この度、2026年6月23日をもちまして、代表取締役社長に就任しました平尾賢二です。当社グループが長年にわたり培ってきた企業文化、技術力、ステークホルダーの皆様との信頼関係を大切に継承しつつ、事業環境の変化に的確に対応し、更なる業績拡大と企業価値向上に取り組んでまいります。株主の皆様のご期待にお応えできるよう尽力する所存ですので、何卒よろしくご期待申し上げます。

ここに、2025年度(2025年4月1日から2026年3月31日まで)の事業の概況をご報告いたします。

2026年6月

代表取締役社長 **平尾 賢二**



2025年度の経営成績は、売上高は26,828百万円(前期比1,821百万円[7.3%]の増収)となり、営業利益は1,674百万円(前期比609百万円[57.2%]の増益)、経常利益は1,650百万円(前期比576百万円[53.7%]の増益)、親会社株主に帰属する当期純利益は1,427百万円(前期比244百万円[20.7%]の増益)となりました。

売上高については、製造業向けセグメントにおいて乳化・攪拌装置の製造が好調に推移したことに加え、2025年6月よりグループ入りした株式会社小寺電子製作所の売上高が寄与したこと、建設業向けセグメントにおいて空調・給排水・衛生設備の設計及び施工や建設工事用エレベーターの製造及びレンタルが堅調に推移したことから、売上高は増収となりました。

営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、上述の増収要因に加え、主に建設業向けセグメントにおいて空調・給排水・衛生設備の設計及び施工や大規模施設向け動力制御盤・分電盤・配電盤等の製造で利益率が改善したことから、前期比で大幅な増益となりました。

セグメント別にご説明いたしますと、次のとおりです。

製造業向けセグメントでは、乳化・攪拌装置の製造で大目案件の引き渡しがあったことや、2025年6月よりグループ入りした株式会社小寺電子製作所の売上高が加わったことから売上高は大幅な増収となり、それに伴って営業利益も増益となりました。

建設業向けセグメントでは、空調・給排水・衛生設備の設計及び施工や建設工事用エレベーターの製造及びレンタルが好調であったことや、2025年7月よりグループ入りした株式会社ヤマガタ共同の売上高が寄与したことから、売上高は増収となりました。営業利益は、売上高の増収に加え、大規模施設向け動力制御盤・分電盤・配電盤等の製造や空調・給排水・衛生設備の設計及び施工における利益率の改善により、大幅な増益となりました。

レジャーセグメントでは、前期に大口の遊園地遊戯機械設備の引き渡しがあった反動により、売上高は減収となりましたが、利益率の改善により営業利益は増益となりました。

上記の通り、「中期経営計画<24-'26>」の2年目となる2025年度も、前年度に引き続き増収増益を達成することが

できました。2025年度の期末配当金は、前年度の水準を継続して、一株当たり7.5円とさせていただいております。また、中期経営計画にも掲げている株価を意識した経営の一環として、最大50百万円の自己株式取得も併せて実施しています。

なお、中期経営計画では、既存事業の成長に加え、M&Aによる体質強化と規模の拡大を目指しており、2025年6月2日付で株式会社小寺電子製作所を、同7月1日付で株式会社ヤマガタ共同を、それぞれグループに迎えました。グループに加わった2社の更なる業績向上を図るとともに、グループの持続的な成長のための積極的なM&Aを進めてまいります。

また、サノヤス精密工業株式会社の本社工場(兵庫県三田市)では、ロボット工場及び鍛造倉庫の建て替えを実施しており、既存・基盤事業の強化と従業員のより良い労働環境の整備を目指した設備投資も、引き続き行ってまいります。

中期経営計画の最終年度となる2026年度も、中期経営計画の着実な実行を通して、企業価値の向上に努めてまいります。

2026年度の連結業績予想については、売上高は豊富な受注残を確保している建設業向けセグメントとレジャーセグメントが牽引し、増収予想としていますが、利益面は2025年度が想定以上に好調に推移した反動、給与アップ等の人財投資の継続的な実施に加え、中東における混乱の長期化による原材料調達やエネルギー価格への影響等不透明な状況を踏まえ減益の見通しとしており、中期経営計画の最終年度目標のとおり、売上高300億円、営業利益10億円、経常利益10億円、親会社株主に帰属する当期純利益8億円を見込んでいます。中東情勢やそれに伴う原油の供給不足など先行きは見通し難い経済環境ではありますが、中期経営計画策定時に掲げた業績目標については、何とでも達成したいと考えています。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくご期待申し上げます。

**TOPICS
01**
**サノヤス・エンテック株式会社が、
「ALFALINK尼崎 South」の空調・給排水工事を竣工**

サノヤス・エンテック株式会社は、2025年10月に「ALFALINK尼崎 South」の空調・給排水工事を竣工いたしました。

同施設は、6階建てダブルランプウェイ、延床面積約23.8万㎡の大型物流施設であり、対となる「ALFALINK尼崎 North」と合わせて、「ALFALINK尼崎」として総延床面積約37万㎡を誇る関西最大級の最先端物流拠点です。また、災害時には防災拠点としても利用されるほか、共用部にはレストランや子育て支援施設等も備え、様々な企画やイベントが開催される地域に開かれた施設となっています。

サノヤス・エンテック株式会社は、2025年10月で創業100周年を迎えており、105周年となる2030年に売上高50億円の達成を目指し、legend山田工業の復活を期す『Revival 50』を目標として掲げています。積極的な人財採用と人財活用施策の導入による成長を図っており、新生サノヤス初年度の2021年度と比較して、2025年度の売上高は2倍以上、営業利益は約8倍と大幅な成長を遂げています。

これからも、公共施設の工事を通じての快適な社会環境づくりと、105周年、そしてその先の更なる成長を目指してまいります。



ALFALINK尼崎 (右奥がALFALINK尼崎 South)

**TOPICS
02**
**サノヤス・ライド株式会社とグリーンランド遊園地が、
共同で新型ジェットコースターを導入**

サノヤス・ライド株式会社は、グリーンランドリゾート株式会社より、同社が運営する遊園地「グリーンランド」(熊本県荒尾市)内に、同社と共同で、新型ジェットコースター『ハイブリッドコースター海神〜WADATSUMI〜』を2028年春(予定)に導入することとなりました。

グリーンランドは、敷地面積55万㎡、アトラクション数日本一を誇る西日本最大級の遊園地です。

『ハイブリッドコースター海神〜WADATSUMI〜』は、日本初となる鋼鉄製の支柱と木製の走路を組み合わせたハイブリッド構造を採用したジェットコースターです。支柱を鉄にすることで揺れを軽減しつつ、木製走路ならではの乗り心地を体感することができます。荒れ狂う海のように浮き沈みの多い走路が特徴的で、ふわっと浮き上がる浮遊感「エアタイム」が最大の魅力です。また、最初の急降下から最後まで、減速することなく一気に駆け抜けていく疾走感を体験できる、爽快感抜群のアトラクションになっています。海を思わせる支柱のコバルトブルーと、走路に使用される天然木の自然な色合いとのコントラストは、アート性にも優れています。米国で製造し、サノヤス・ライド株式会社で施工を行います。

サノヤス・ライド株式会社は「お客様の“ワクワク”と私たちの“ワクワク”をつなげます」という企業ビジョンのもと、これからもご満足いただける遊戯機械を提供いたします。



『ハイブリッドコースター海神〜WADATSUMI〜』イメージ

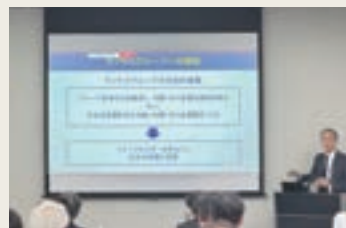
**TOPICS
03**
サノヤスグループ初の試みとなる「技術者交流会」を開催

2026年4月、技術力の高度化と収益力強化を目的として、グループ横断で初の試みとなる、技術者を集めての会合「技術者交流会」を大阪市内で開催しました。

グループ各社の「技術・開発・設計・製造・調達・サービス」といった、様々な技術系業務の第一線で活躍する役職員約90名が参加し、グループ内の開発事例・カイゼン事例の共有や、参加者を5つのグループに分けての技術をテーマとしたディスカッション等を行いました。

参加者からは「普段接点のない他の事業会社の技術者と率直に話せる場として、非常に有意義だった」「高橋社外取締役のお話は技術者としての原点を再認識することができた」等の感想が寄せられました。本交流会により、技術者間のネットワーク形成が進展し、従来分断されがちであった知見の共有基盤が整備され、今後、開発効率の向上や品質・コスト改善に向けた具体的な取り組みが推進されることが期待されます。

サノヤスグループは、「確かな技術にまごころこめて ~人と技術を磨き、新たな顧客価値を創出する~」のグループ理念のもと、これからも本交流会を継続的に実施し、技術知見の統合による製品競争力の強化を図るとともに、技術者のエンゲージメント向上、属人化リスクの低減、技術力の再現性向上といった人的資本の強化を通じて、中長期的な収益力の向上と企業価値の最大化を目指します。



高橋社外取締役(新日鐵住金株式会社(現日本製鉄株式会社)元代表取締役副社長)による講話「技術開発における心構えとサノヤスグループに期待すること」



中期経営計画進捗報告

2025年度の実績と中期経営計画の目標

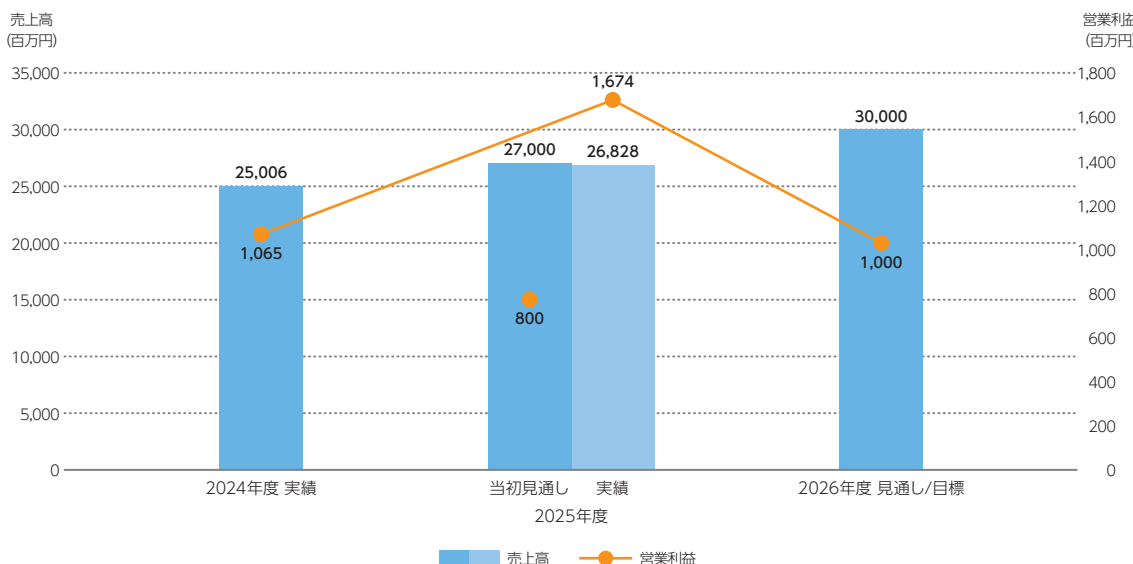
サノヤグループでは、2026年度を最終年度とする3か年の「中期経営計画<'24-'26>」を策定しています。

中期経営計画<'24-'26>では、2026年度に、連結売上高300億円、営業利益10億円、営業利益率3.3%、ROE6%以上の各経営指標を達成することを目標としています。

(百万円)

	2024年度 実績	2025年度 当初見通し*	2025年度 実績	2026年度 見通し/目標
連結売上高	25,006	27,000	26,828	30,000
営業利益	1,065	800	1,674	1,000
営業利益率	4.3%	3.0%	6.2%	3.3%
ROE	12.3%	—	12.6%	6%以上

※2025年5月発表時点



2025年度の具体的な取り組み

注力分野の成長ドライブ	ヤマガタ共同の子会社化及び松栄電機グループの人員増強による生産能力強化 データセンター向け動力制御盤等の受注推進(松栄電機/ハピネスデンキ) 水処理ソリューションの人員増強と受注拡大(みづほ工業)
既存事業の強化	真空乳化攪拌装置の新製品2機種の販売開始及び攪拌技術セミナーの実施(みづほ工業) 東武動物公園「ドリフター」、グリーンランド 大型コースターの導入(サノヤス・ライド) パーキングシステム事業における工程管理強化等による受注拡大(サノヤス・エンジニアリング)
新規事業分野への進出	小寺電子製作所の子会社化による電線加工機分野の獲得 イノベーション推進委員会活動による新規商材のプロトタイプ開発
カーボンニュートラル実現に向けた取り組み推進	消費電力見える化の推進と消費削減対策の推進 太陽光発電の推進
人的資本経営の充実	グループ全社(海外子会社を除く)で65歳までの定年延長及び70歳までの再雇用制度の導入 定期昇給を含め5%程度の賃上げ実施 「人材重視経営」推進のための人事制度見直し(HDを含めたグループ6社)
収益力アップに向けた事業基盤の強化	全社統一コミュニケーションツール「Microsoft 365」導入による業務効率向上 老朽化建屋の建替え(サノヤス精密工業/ハピネスデンキ)

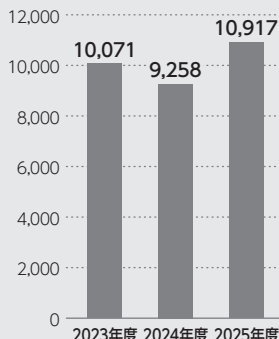


セグメント概況

製造業向け事業

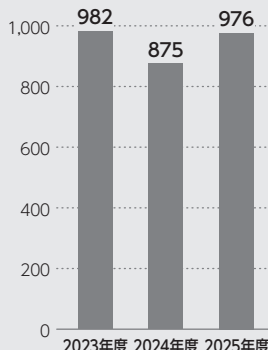
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



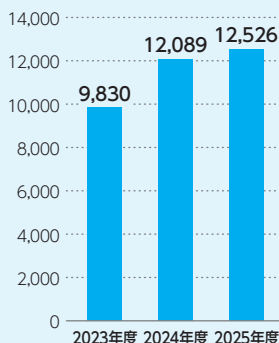
2025年度 売上高 **109億17**百万円

製造業向けセグメントにおいては、乳化・攪拌装置の製造で大口案件の引き渡しがあったことに加え、2025年6月よりグループ入りした株式会社小寺電子製作所の売上高が寄与したことから、売上高は大幅な増収となりました。営業利益は、売上高の増加に伴い増益となりました。受注高・受注残高については、純水設備・排水処理設備及び膜分離装置の設計及び施工で前期に受注した大口工事が完工したことに加え、大口工事の受注が少なかったこと、中国の経済状況の不調により海外での受注が低調であったことを主因に、前期比では減少しました。この結果、当期の売上高は10,917百万円(前期比1,659百万円の増収)、営業利益は976百万円(前期比101百万円の増益)、受注高は8,610百万円(前期比939百万円の減少)、受注残高は4,446百万円(前期比599百万円の減少)となりました。

建設業向け事業

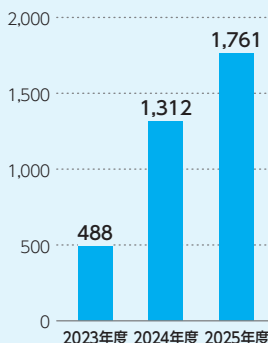
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



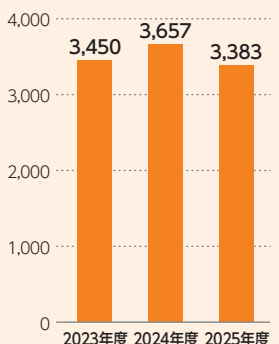
2025年度 売上高 **125億26**百万円

建設業向けセグメントにおいては、空調・給排水・衛生設備の設計及び施工や建設工事用エレベーターの製造及びレンタルが好調に推移したこと、2025年7月よりグループ入りした株式会社ヤマガタ共同の売上高が寄与したことから、売上高は増収となりました。営業利益は、売上高の増収に加え、大規模施設向け動力制御盤・分電盤・配電盤等の製造や空調・給排水・衛生設備の設計及び施工で利益率が改善したことにより、大幅な増益となりました。受注高・受注残高については、空調・給排水・衛生設備の設計及び施工や大規模施設向け動力制御盤・分電盤・配電盤等の製造、機械式駐車装置の製造及びメンテナンス、建設工事用エレベーターの製造が好調に推移し、前期比で大幅に増加しました。この結果、当期の売上高は12,526百万円(前期比4,366百万円の増収)、営業利益は1,761百万円(前期比449百万円の増益)となり、受注高は14,023百万円(前期比4,563百万円の増加)、受注残高は9,783百万円(前期比2,492百万円の増加)となりました。

レジャー事業

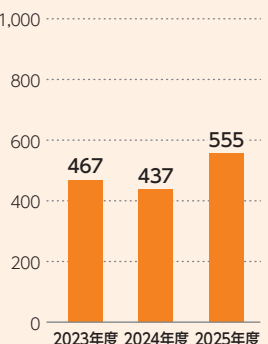
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



2025年度 売上高 **33億83**百万円

レジャーセグメントにおいては、前期に大口の遊園地遊戯機械設備の引き渡しがあった反動により、売上高は減収となりましたが、利益率の改善により営業利益は増益となりました。受注高・受注残高については、熊本県のグリーンランドに大型のジェットコースター導入が決まったことをはじめ、複数の大口遊園地遊戯機械設備を受注したことにより大幅に増加しました。この結果、当期の売上高は3,383百万円(前期比274百万円の減収)、営業利益は555百万円(前期比118百万円の増益)、受注高は5,925百万円(前期比4,715百万円の増加)、受注残高は4,575百万円(前期比4,218百万円の増加)となりました。

株式会社ヤマガタ共同の子会社化について

当社は、2025年7月1日、株式会社ヤマガタ共同の全発行済株式を取得し、同社がサノヤスグループの一員に加わりました。

同社は、1986年に創業し、「高精度・高品質を追求し、お客様の期待に応える技術サービスで社会に貢献する」という創業理念のもと、約半世紀にわたり事業を展開しています。

主たる事業は、制御盤および操作盤の製造・販売であり、機械制御盤の製造にとどまらず、板金単体での受注にも対応しています。また、盤のほかにも検査用の産業機械やLED看板などの受注品をお客様と共同開発しています。

最大の強みは、設計から板金加工、組立、電気配線、検査までを一貫して自社で生産できることです。特に多岐の業界にわたって様々な制御装置に対応しつつ、板金加工と電気配線を一社で完結できる企業はそれほど多くなく、この点が同社の強みとなっています。

同社を当社グループに加えることにより、同業種であるハピネスデンキ株式会社、松栄電機株式会社及び松栄電気システムコントロール株式会社の3社とのシナジーを発揮することができ、営業面での相乗効果に加え、技術・生産面での補完関係を活かし当該分野における事業成長と収益力の強化を図ることで、更なる価値創出を目指します。



ヤマガタ共同 本社

会社名	株式会社ヤマガタ共同
事業内容	各種制御盤・操作盤等の製造、販売
従業員数	26名（2026年3月31日現在）
本社・工場	山形県村山市金谷5番2
売上高	279百万円（2025年8月期）
設立	1986年2月13日
資本金	76百万円





連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

科目	金額 (単位: 百万円)	
	2024年度末	2025年度末
資産の部		
流動資産	12,806	14,821
固定資産	14,869	19,242
有形固定資産	8,076	9,097
無形固定資産	1,067	2,847
投資その他の資産	5,724	7,298
資産合計	27,675	34,064
負債の部		
流動負債	10,420	12,423
固定負債	7,083	9,162
負債合計	17,504	21,585
純資産の部		
株主資本	7,561	8,804
その他の包括利益累計額	2,568	3,642
新株予約権	41	32
純資産合計	10,171	12,479
3 負債及び純資産合計	27,675	34,064

連結損益計算書 (要旨)

科目	金額 (単位: 百万円)	
	2024年度	2025年度
1 売上高	25,006	26,828
売上総利益	6,232	7,513
営業利益	1,065	1,674
経常利益	1,073	1,650
税金等調整前当期純利益	1,064	1,655
当期純利益	1,182	1,427
2 親会社株主に帰属する当期純利益	1,182	1,427

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科目	金額 (単位: 百万円)	
	2024年度	2025年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,500	3,406
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 817	△ 3,861
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 337	780
現金及び現金同等物に係る換算差額	43	4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	389	330
現金及び現金同等物の期首残高	1,566	1,956
現金及び現金同等物の期末残高	1,956	2,286

ポイント

1 売上高

製造業向けセグメント及び建設業向けセグメントの増収を主な要因として、前期比1,821百万円の増収となりました。

2 親会社株主に帰属する当期純利益

増収に加えて、主に建設業セグメントの一部事業において利益率が改善したことにより、営業利益が609百万円増加したことを主因に、244百万円の増益となりました。

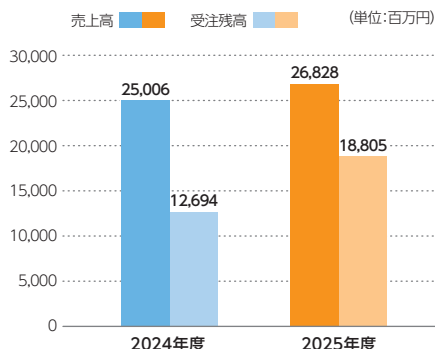
3 負債及び純資産合計

借入金及び利益剰余金の増加により負債及び純資産合計が増加した結果、自己資本比率は36.5%と、昨年度と同水準を維持しています。

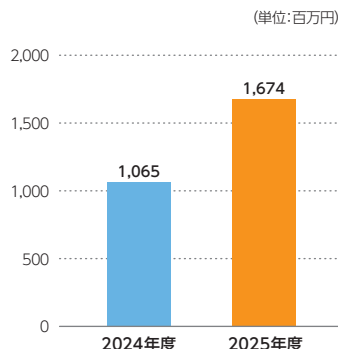


連結財務ハイライト

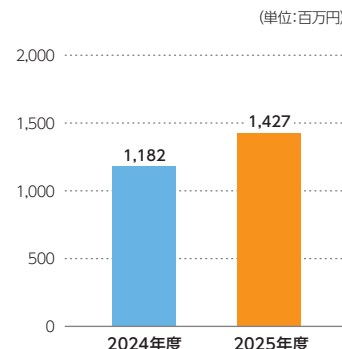
売上高・受注残高



営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



第15期定時株主総会決議ご通知

6月23日開催の当社第15期定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

報告事項

- 第15期(2025年4月1日から2026年3月31日まで)事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
- 第15期(2025年4月1日から2026年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
本件は、原案どおり承認可決され、期末配当は1株につき金7円50銭と決定いたしました。

- 第2号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く。)7名選任の件
本件は、原案どおり上田孝、平尾賢二、岩佐久徳、北達伊佐雄、森薫生、高橋健二、副島寿香の7氏が選任され、それぞれ就任いたしました。
- 第3号議案 監査等委員である取締役3名選任の件
本件は、原案どおり久下鉄也、山田茂善、山廣隆文の3氏が選任され、それぞれ就任いたしました。
- 第4号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件
本件は、原案どおり副島寿香氏が選任されました。

期末配当金のお支払について

第15期期末配当金は、同封の「配当金領収証」により、払渡期間内(2026年6月24日から2026年7月31日まで)に最寄りのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)でお受け取り下さい。
また、振込先をご指定の方には、「配当金計算書・配当金のお振込先について」を同封いたしましたのでご確認ください。

会社情報

グループ理念

「確かな技術にまごころこめて」

会社概要(2026年3月31日現在)

商号	サノヤスホールディングス株式会社
設立	2011年10月3日
資本金	73百万円
従業員	従業員数 54名 連結ベース 1,028名(臨時従業員217名を除く) 平均年齢 41.3歳
本社	〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号

株式情報(2026年3月31日現在)

株式の状況	発行可能株式総数	120,000,000株
	発行済株式の総数	33,977,282株
	株主数	10,579名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本駐車場開発株式会社	4,471,400	13.33
サノヤス共栄会	2,716,500	8.10
株式会社三井住友銀行	1,425,000	4.25
ストラクス株式会社	1,402,000	4.18
三井住友海上火災保険株式会社	1,123,000	3.35
住友不動産株式会社	1,120,000	3.34
株式会社カナックス	1,003,900	2.99
個人株主	691,900	2.06
三井住友信託銀行株式会社	650,000	1.94
個人株主	649,700	1.94

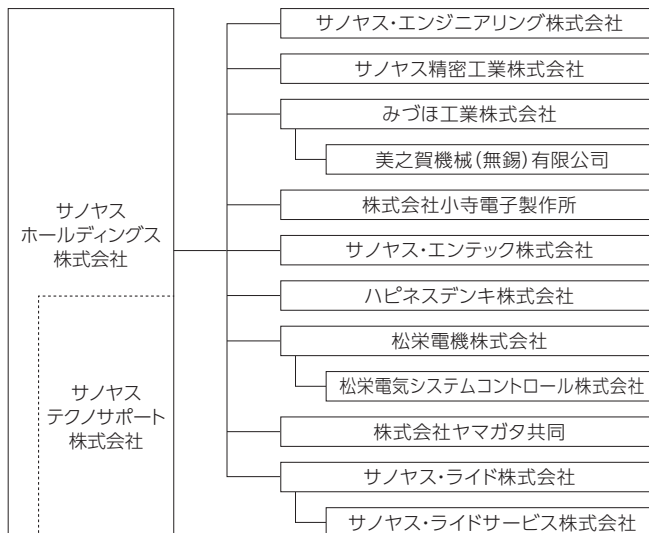
(注) 持株比率は、自己株式(440,820株)を控除して計算しております。

役員一覧(2026年6月23日現在)

代表取締役会長	上田 孝	上席執行役員	花田 恵二
代表取締役社長	平尾 賢二	上席執行役員	遠藤 雅也
取締役 役員	岩佐 久徳	上席執行役員	山本 伊佐雄
取締役 特別顧問	北達 伊佐雄	上席執行役員	坂下 武司
取締役	森 薫生*	上席執行役員	菅野 信也
取締役	高橋 健二*	上席執行役員	浅尾 洋光
取締役 副島 寿香*		上席執行役員	中西 康之
取締役 (常勤監査等委員)	久下 鉄也	上席執行役員	大門 淳
取締役 (監査等委員)	山田 茂善*	常務執行役員	坂根 誠
取締役 (監査等委員)	山廣 隆文*	執行役員	田代 昌利
		執行役員	内山 博之

*は社外役員を表します。

サノヤスグループ一覧(2026年6月23日現在)



サノヤスホールディングス株式会社

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

